

# 《審議会報告・概要版》

## 総合計画審議会 第3回 第2部会

平成18年7月25日(火)午前9時  
市役所本館6階 第3委員会室

(次第)

### 1 開会 (会長)

### 2 (1) 前回意見と事務局対応案について

#### (2) 追加審議

- 資料1に基づき、前回意見に対する事務局対応案を説明した。
- 資料2に基づき、第1・2部会で出された意見の概要を説明した。

(説明者：松田計画調整課長)

- 時代の潮流、基本構想及び基本計画について追加審議を行った。(主な意見は以下のとおり)

### 3 部会意見の取りまとめ

### 4 その他

- 次回(第4回)の予定について確認した。

審議内容 基本計画各論

日時 平成18年8月10日 午後1時30分から

会場 本館6階第3委員会室

以上。  
終了：正午

(主な意見) 各部会での意見は別添意見一覧を参照ください。

#### 時代の潮流

P5の「育てて～必要があります。」を「育てていく必要があります。」にしては？  
宣伝がうまくない。

#### 修正5．環境問題への関心の高まりについて

京都議定書よりも、平成5年の環境基本法の方から触れた方がよい。

京都議定書は、国レベルのものだが、環境は生活の質にかかわってくる。

環境について具体性がない。

新潟市では何をやるのか書き込んだほうがよい。

「環境にやさしい」は表現を変えたほうがよい。

タイトル「関心の高まり」では軽すぎる。顕在化しており、危機感を持った表現にしたほうがよい。

持続可能なまちづくりは、サステイナブルとは違う。

#### 基本構想

発信力がない。

田園の意味は。日本海開港都市の開港は必要か。

日本海開港交流から日本海を削除しては。

まちとその周辺地域との公平性が必要。

小学校から農業教育を。(環境教育の始まりになる)

農業の大切さ教えないので、農業をしない。

横の連携で特徴ある農業づくりを。

大量生産、大量消費がいいとは限らない。

外に出さなくて地元で消費する考えもある。

拠点性の記載にインパクトがない。

日本海交流軸の相手をもっと広く。

他の部会で環日本海の記述を問題にしていたが、このままでよい。

安全、安心の順番についてはあとで検討する。

危機に対する対応が無い。(都市のスラム化等)

起きうるリスクの対策を構想に入れることで、安心な暮らしの方向を示せるのではないか。

#### 基本計画総論

再就業教育,再雇用が人口の流出防止につながる。

(人口対策には)農村と都市の中間点(プラットホーム)の活性化,起業,地産地消等が必要

「土地利用の方針」は「まちづくり」のことではないのか。

他の計画でもこの位置に土地利用があり,すわりがいい。

P33 に「緑」の記述を。

旧市街地に緑が少ないことの記載を。

P35 に農業規範,他都市に無い農業や海外へ進出の記載を。

P35 に「日本の2大河川」の記述を。

都心周辺部に曽野木地区は入るか。

区の間で勝ち組負け組を作らない工夫を。

まちの周辺部には明るい展望を記載してほしい。

新交通システムの記載は。

#### その他

構想を施策にどう織り込むかが重要だ。

新潟市の自画像,地域力は?

計画のチェック機能は。